



2006初の団体交渉がありました



こんなんで交渉はすすむのか??

昨年12月7日に団体交渉を申し込んだんですが、その対応が先日(25日)に開かれました。交渉項目については「労働条件の改善」ということで、各職種の労働条件改善に向け交渉を要求しておりました。いくつかの項目については、よい回答がもられたのですが、全くといっていいほど前進しないものもありました。結果については親機関紙「赤煉瓦」にて各要求項目別に改善したところと今後の課題を分析していきますので、この「やまくら～ズ」では触れないでおきましょう。

ただ、僕がこの交渉に出ていて思ったことは、「こんな交渉で前進はあるのだろうか??」ということです。例えば「計画年休(ゴールデンウィーク等)」については、5月の連休中に中日(出勤日)がある場合などには、7月の「海の日」等を振り替えて充ててみるなどしてはどうか?という要求に、組合側から「学生にアンケートをとってみた(一部)が、ほとんどが振り替えのほうがいい」という声があった旨、付け加えたところ、使用者側から出た回答は「学生全体の100%が、そうしてほしいという要望が出れば考える」とのこと。おいおい、100%なんてあるのかよって感じです。やっぱ数がいれば一人や二人、異を唱えるやつっているんじゃないの??それに100%にこだわるんだったら、職員の給与引き下げについても、全教職員が「いいよ」って言ったのかい??それこそ100%にはほど遠い数なんじゃないの??これって単なる言い逃れじゃない。



組合と使用者ってのは立場が違うので、なんでもすんなりいくとは思えないんだけど、組合もちゃんとした論拠を元に交渉しているんだから、「ダメだ」「難しい」「他をみてから」なんてことしか言わないで、誠実に答えてほしいものです。いくつか怪しいコメントも交渉内であったんだけど、それは「赤煉瓦」の報告でということ。みなさん親機関紙もお楽しみに。

これから更に厳しい局面へ

また、交渉後に2006年度(4月から)の給与問題について、使用者側から「こんなんでいきたい」と案が出されました。見てみると人事院勧告となんら変わりはなく、大学独自で何処まで検討したのかなんて判りゃしない。このままだと確実に平均4.8%の賃金引下げはやってきます。今回の引き下げ(-0.3%)で仕方ないやと思っている人も、今度は確実に10倍以上の引き下げですぞ。黙っててもなにも解決はせんとです。組合がどうのではなく、自分がどうかの判断をしてください。

編集者のぼやき

いやぁ、ようやくネタができたんで、久々の「やまくら～ズ」です。前始めたときも、1月でリタイヤしたんで、すごく心配だったけど、なんとか乗りきれたみたいですね。これからは交渉等が多くあるだろうから心配なし。それと交渉において、病院問題については調査はしたけど「いい報告」しか受けてないらしいので、不満のある医師や看護師の皆さんもどしどし「やまくら～ズ」を使って訴えてくださいな。現状の厳しさを使用者にわからせるべきですぞ。

熊本大学教職員組合青年部機関紙
やまくら～ズ 発行 No.23 2006/01/30